

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）10:00~12:00

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：意見発表者 16

東松山市から参りました。もう現役を引退しまして小さな会社の嘱託をしております。座って意見を述べさせていただきます。

私は、だいぶ以前から万座・草津方面に出かけるたびに吾妻峡の上流にハッ場ダムの関連工事が始まっているのを目に致しておりました。名勝の吾妻峡はどうなるのか心配していましたが、ダムは上流にできるので吾妻峡は残るということで、ホッとしたものでした。順調に工事が進捗しているように見え、ダムの完成を楽しみにしていました。一方で週刊誌等で巨額な工事費のことなどを目にし、当初の計画より大変な費用がかかることに驚愕しておりました。工事が長くなるほど費用がかかるのは自明の理です。何故もっと早く着工し、完成させなかったのか、悔やまれるところです。政権交代があり、突然の中止ということで、ただただ唾然と致しました。一方、ダムは必要なのか、必要ないのか私なりに勉強し色々資料を閲覧し自分の考えをまとめてみました。それでは、ハッ場ダム建設に関連します私の意見を発表させていただきます。

埼玉県は海なし県です。従いまして県内に降った雨は、直接、海には出ず一旦河川に入り、それから他の都県を通過して海に排水されます。このようなことから本県では利根川や江戸川そして荒川などの大きな河川が排水先となります。しかしながらこれらの河川は大河川といえども受けてくれる量には当然限度というものがああります。降った雨は全て受けてくれといっても大河川は私たちの地域だけではなく他の多くの地域からの排水も受けなければなりませんから、当然そこには限りがあるということになるわけです。その結果、流域に降った雨が河川に吐ききれず、あちこちに湛水する。或いは河川に流れ込んでしまった雨水が川の容量が足りないために溢れるといったことで水害が発生してまいります。そしてこの湛水する量、川から溢れる量が多いほど被害が大きくなり、時には壊滅的な被害となることもあります。そのため古来より水を治めることは為政者の重要な課題の一つでありましたし、人類の歴史はある面では水との戦いであったといっても過言ではないかと思えます。埼玉県は武蔵の国と呼ばれ、当時は利根川や荒川などの大河川が県内を乱流しながら東京湾に注いでいたそうです。それが、徳川家康が江戸に入ると、大規模な治水対策を行ったため、以来、現在のような河川の体形が定まってきたのだそうです。しかしながら、本県の多くは、湖沼や湿地のあった水害の発生しやすい地形のために毎年被害が発生し、また埼玉県が東京に近いという地理的な条件もあって都市化が進み、洪水が出やすくなり、被害もより甚大化してきておまして、早急な治水対策が望まれているのが現状であります。県では支流の改修を進めておりますが、この効果をより発揮させるためには受け入れる大河川が強くなければなりません。私が住んでいるのは東松山市で荒川流域です。荒川は、以前から幾度となく被害をもたらしてきました、これからもさらなる治水対策の推進をお願いするところですが、それでも以前からすると被害は減ってきていると思えます。これは何故かといえ、大きく挙げられるのは上流地域にダムが建設されたからだと思えます。浦山ダム、滝沢ダム、それから県営の合角ダム、有間ダムも完成しましたので、今後、大いに期待して参りまいたいと思っております。一方、埼玉県の県北から県東部地域ではなくとも利根川が頼りです。その頼りの利根川が昭和 22 年のカスリン台風では大利根町では堤防が決壊し、かつて無いほどの大水害に見舞われました。当時は、まだ終戦間もなくで多くの県民が未来

への希望もなく途方に暮れていた時だけにその衝撃は計り知れないものでした。あの大水害を2度と繰り返してはなりません。万が一にも利根川が氾濫しますと、県内はもとより東京方面までも被害が及ぼすと想定されるところで絶対に起こらぬように努めなければなりません。このことから本県にとりまして利根川の治水対策は、大変重要で早期に対策を進めることが肝要であるにもかかわらず、このところちょっと歩みが遅くなっているようです。その原因としてあげられるのが今、休止している八ッ場ダム建設ではないでしょうか。ダムに頼らない治水ということで休止になったようですが、ではダムに変わる治水対策として何があるのでしょうか。私は、以前から思っていることに、仮に川幅を広げ高い堤防を築いて洪水を処理するとなれば本県北東部地域のような地形勾配が緩やかなところでは危険な状態が長く続くことになるのではないのでしょうか。私は利根川本川の水位を下げるのが、より安全に繋がっていくと思っております。そして本県からの排水も容易になると思います。利根川の水位を下げるにはどうするか、それは申すまでもなく上流からの流入を減らすことです。群馬県伊勢崎市の八斗島地点で何にも洪水調整施設がないときに流れる毎秒 17,000m³/s の洪水を上流のダム群で毎秒 14,000m³/s まで下げるそうですが 3,000m³/s の洪水をダムで処理するということはすごいことだと思います。八ッ場ダム建設事業の検証に係わる検討報告書（素案）を拝見しましたが、一定の安全度を確保するにはコストで最も有利なのはダム案。時間的な観点から見た現実性を見てもダム案。洪水調節においても最も有利なのはダム案ということで、まさにダムを取り入れることが最も優れた治水対策ということになるかと思えます。次に八ッ場ダムが埼玉県にとって水道水の水源確保としても必要なダムであるということです。地下水の利用は、地盤沈下を起こすということで、河川表流水への転換をしてくれています。しかしながら表流水の水利権の中には八ッ場ダムの建設を前提とする毎秒 7.5m³ が含まれております。一方で水が余るといったような声があったようですが、これは一定の利水計画の枠の中での話だと思いますので、安全性を考えれば何ら問題ないと思えます。水は作れるものではありません。何らかの事態を想定し可能ならば水を確保しておくということも大事なのではないでしょうか。八ッ場ダム建設事業の検証に係わる検討報告書（素案）でも、一定の目標すなわち水利参画者が必要開発量を確保するには、コスト面でダム案。時間的な観点から見た現実性として目標を達成することは可能なのはダム案。また新規利水においても最も有利なのはダム案であり、洪水調節、新規利水についても最も有利なのはダム案であります。いま、タイでも大洪水が世界中の話題となっております。一説にはダムの放流が原因だったのではないかとされているようですが、言い換えれば上流での水を貯め込む能力が無かったということになるのではないかと思います。最近、異常気象により世界各地で大洪水や大雪、或いは竜巻などが発生しており私たちの近辺でもいつ豪雨があるかもしれませんし、また大渇水が生じるかもしれません。これらに対処するのに最も効果的なのは、水を貯めることではないでしょうか。その施設としてあげられるのがダムであり、以上のことからダムの建設を早急に進めるべきであり早期に着工されるよう切にお願い申し上げ私の意見発表を終わります。ありがとうございました。

以上